



2025 年 4 月 25 日に開催された

2025 年度第 1 回理事会(臨時)の概要をお知らせします。

#### <決議事項>

##### ●次期理事候補者決定について

- ・理事から推薦された理事候補者について理事候補者選定委員会で選定を行い、19 名の候補者が推薦された。
- ・委員長より委員会内での審議の方向性や選定経緯が伝えられた。
- ・個々の選定理由の詳細は資料のとおり。
- ・本日の結果を推薦者より候補者に内々の情報として伝える。

#### 【決議事項】

提案の通り、次期理事候補者 19 名が承認された。

6 月 13 日の定時評議員会で承認された後に正式に選任される。

##### ●中期経営計画の更新について

- ・中期経営計画は 1 年経過したところで、現状にそぐわないところがあるため、追加・削除を行いたい。
- ・インドアやビーチでもこれまでアンダーカテゴリーの強化について施策が盛り込まれていなかった。一定の予算を使って活動をしていることもあり 2 点を追加。

#### 《追加施策》

##### ①代表強化ーインドア男女ーアンダーエイジカテゴリーの強化

(KPI) WUG：メダル獲得、U21 世界選手権：メダル獲得、U19 世界選手権：メダル獲得

U16 アジア選手権：翌年の世界選手権出場権獲得

##### ②代表強化ービーチ男女ーアンダーエイジカテゴリーの強化

(KPI) 男子ーWUG：9 位、U21 世界選手権：出場権獲得

女子ーWUG：9 位、U21 世界選手権：9 位

- ・中期経営計画の施策の中では日々の業務の範囲に該当する項目、他の柱にある施策に統合できるものなど 6 点を削除した。

#### 《削除施策》

##### 組織運営

##### ①組織内コミュニケーションの円滑化



- ②加盟団体との相互コミュニケーションの改善による全国規模のガバナンス体制構築
- ③実効性がありスピーディに意思決定できる体制作り
- ④アウトソースの活用
- ⑤新人事制度（等級・役職制度、評価制度、給与制度）の導入と定着
- ⑥新 SV リーグとの協力関係の構築

#### 【決議事項】

提案の通り、中期経営計画の更新が承認された。

#### ●日本代表シニアチーム報奨金・獲得賞金配分の現行制度の廃止と

##### 日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程の新設について

- ・日本代表チームへの報奨金に関する規程が非常に古い内容のままとなっており、現状と合致していない箇所が散見されていた。
- ・報奨金に関する規程を更新するとともに、別規程となっていた獲得賞金に関する規程を統合した規程を新設する。言及がなかったビーチバレーボールについても追記することで、バレーボール/ビーチバレーボール双方に適用できる規程とする。
- ・それに伴い現行の下記2つの規程を「日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程」として統合し、同時に古い情報を更新（現行規程は廃止）する。

ー全日本シニア男女チーム選手獲得賞金配分制度\_2008.04.01 施行

ー全日本シニア男女チーム報奨金制度\_2008.04.01 施行

- ・賞金配分について「大会参加にかかる経費を差し引いた額を配分」と記載が曖昧であった箇所を整理。
- ・報奨金については対象が選手のみであったこと、選手はどの範囲が対象になるかが不透明であったため、チームへの報奨金総額として定め、その配分は都度検討いただく形とした。

#### 【決議事項】

提案のとおり、日本代表シニアチーム報奨金・獲得賞金配分の現行制度の廃止と日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程の新設について承認された。

#### ●コンプライアンス規程の改定について

- ・公益財団法人日本スポーツ協会（以下、JSPO）が規定する「登録者等処分規程 処分基準」（JSPO と JVA で協同認定している「公認スポーツ指導者（競技別指導者資格・バレーボール）」有資格者等を対象とした処分基準）において、処分を行った行為、行為を行った結果の内容に、JSPO の基準と JVA の基準に乖離があり処分基準を改定したい。
- ・これにより、審査検討の際に相互に整合した議論となるため、処分結果の不一致を解消したい。
- ・現状の課題として、JVA の処分案提案から JSPO の処分決定までに数か月以上の時間を要していることから、最終目標は、JSPO から処分の権限委任を受けて、JVA のみで処分決定が可能となるように環境を整える。7月から運用がスタートできるように進めていく。



#### 【決議事項】

提案のとおり、コンプライアンス規程を改定することについて承認された。

#### ●役職変更に伴う全規程の名称変更の一括承認依頼について

- ・3月の理事会にて承認された JVA 事務局の組織について各部署・役職の名称が変更になった為、それに伴い規程に記載されているそれぞれの名称について、次の改定までの間、読み替えを行いたい。規程の改定は次の改定が生じた際にあわせて行う（対象 14 規程）
- ・今後は、部署名・役職名の変更や表記の統一（漢字をひらがなへ変更等）などの事務作業的な、規程の内容変更に関わらない修正については、業務執行理事会へ権限移譲し、理事会では報告事項とさせて頂きたい。

#### 【決議事項】

提案のとおり、役職変更に伴う全規程の名称読み替えの一括承認および権限移譲が承認された。

#### ●事務局規程の改定について

- ・国際移籍業務の担当を現状の HP グループから業務推進グループに移管したく、事務局規程を改定したい。
- ・これまでは国際移籍を行う選手の多くは日本代表候補選手であり、強化につながる側面から HP グループで業務を担ってきたが、近年、日本代表候補選手以外でも、海外のクラブへ移籍するケースが増加。今年度からの組織再編が行われ国際関連業務を担う部署が再度設置された背景を鑑みて、代表強化業務を所掌する HP グループ／HP 推進チームから業務推進グループ／国内・国際渉外チームへ移管する。あわせて、前回の改定で取りこぼしていた誤植も修正する。

#### 【決議事項】

提案のとおり、事務局規程の改定について承認された。

#### <報告事項>

#### ●帰化関連の調査報告

業務に関する進め方における不適切な点が見受けられたため、外部の弁護士による事実確認を行った。その報告により、改めて組織体で動く意識の強化が必要であるとの指摘があったため、今後は鋭意改善を図っていく。

#### ●収支予測について

現時点の収支予測については以下の通り報告された。



[2024 年度の経常収益計]

○当初予算 21 億円

○合計（予測）27 億円

[2024 年度の経常損益計]

○当初予算△5 億円

○合計（予測）△5,000 万円

約 4 億 7,000 万円の改善の理由としては、収益が大幅に上がった。入場料収益が予想を上回り、特にライセンスグッズの売り上げが非常に伸びたため、肖像素材の使用収益が増えた。また、一般販売収益も増え、協賛収入などの積み上げを合算すると約 6 億円予算を上回った。

正味財産の増減については、最終的な予想は△8,700 万円、年度予想では△5 億円であったため 4 億 3,000 万円ほど改善している。そこに今年度は特定費用準備資金の取り崩しが 3 億 7000 万円ほどあるため、最終的には 3 億 2,000 万円を次の特定費用として積み立てられる。ほぼ均衡収支を見込んでいる。

●JOC ナショナルコーチの追加選任報告

JOC が実施する「コーチ等設置事業」について、推薦候補者については 3 月の理事会で提案を行い選任されていたが、その時点で決定していなかった候補者について、権限移譲を受けていた業務執行理事会で、後日追加選任されたため報告が行われた。

●中期経営計画進捗管理委員会の年度報告

中期経営計画進捗管理委員長より、2024 年度の報告が行われた。各柱の報告の基は、各柱の担当から、委員会での議論・精査を経て、それぞれ課題を中心に要点を 3 つあげた。

○代表強化\_バレーボール

インドアに関して、国際的な情報収集体制の構築という観点で昨年技術委員会が設置されて、その傘下に情報企画部会が設置されているが、実際運用している人が情報収集し分析する予定はあるものの、そこまで具体的な計画が進んでいない。

○JVL と SVL の協業に関して

双方のトップが参加した記者会見もあったが、実際のプロジェクトを進めるにあたりプロジェクトがあまり進んでいないのではないかという指摘もあった。中期経営計画の中でも SV リーグとの連携というのは大きな目標であるため、進捗状況を具体的に確認できる体制として欲しい。

○代表強化\_ビーチバレーボール

女子はオリンピックも含めて結果を残すことができたが、男子は期待通りの結果が残せなかった。今後代表だけでなく、全世代での強化が急務であるが、選手だけでなく指導者不足が大きな問題である。指導者を含めた育成は欠かせないため、具体的に全体の育成計画があれば示して欲しい。

○競技普及



登録管理システムについて、個人の会費を納める基準を定めるということで、都道府県協会とは合意形成が取れたということであるが、具体的な金額設定までは至っていないため、2025 年度中にしっかりと定めて、計画通り 2026 年から実運用できるように進めて欲しい。

#### ○マーケティング

30 社で 12 億円の協賛金獲得の目標は達成したが、実際は大口のスポンサーを獲得したことにより数字を達成しているが、中期経営計画の中では、社会貢献活動のアピール、環境問題への取り組み、ビーチバレーボールの新戦略など、もっと地道な活動を通じて企業の協賛金を獲得することを掲げており、掲げている項目の活動に対する成果はもうひとつである。マーケティング活動は中期経営計画の大きな柱であるため、トップレベルの活動と地に足のついた活動の 2 つの作戦で進めてほしい。

#### ○社会貢献

今回の中期経営計画で初めて社会貢献を公言してきたが、1 年間を通じて、そもそも何を目的として社会貢献実施するのか理由がないことへの反省がある。今年度から作り直して、JVA が社会貢献として何をアピールするのか、目的も含めて体制の構築から進めてほしい。環境問題は企業の SDGs のような曖昧な部分もあるが、一方スポーツ団体としてはソフトバレーやヴィンテージ 8 のような競技普及の裾野を広げる国民の健康や生涯スポーツに対して働き掛けしていくことでの社会貢献もフィットするのではないと思う。

また、日本代表の OB・OG と連携したプロジェクトでは、オリンピックの会との連携も図り社会貢献に寄与していくのが良いかと思っている。

#### ○組織運営

決議事項で一部削除したが、中期経営計画の運用を始めて、事業計画についてはブレイクダウン出来ている。ただ予算策定、管理会計をしっかりと回していくところまで系統的に連携が図れていないため、大きな課題である。来年度の予算策定作業は各柱に対して、具体的にどのくらいの予算が必要であるか、早めに動き始めるべきである。

### ●組織基盤改革プロジェクトの進捗報告

2022 年 6 月 30 日の加盟団体代表委員総会で川合会長から都道府県バレーボール協会の法人化についての方針が示されて立ち上がった法人化プロジェクト（後に組織基盤改革プロジェクトに改名）について、発足からの流れと進捗報告が行われた。

#### 主な活動状況

- 2022 年 7 月～ ブロック単位で法人化に向けての意見交換と情報収集を実施
- 2023 年 4 月～ プロジェクト体制や実施内容を検討
- 2024 年 7 月～ 法人格取得に関わるサポートデスク設置や財政支援策を検討  
持続可能な協会運営のため登録制度の見直しを検討  
※今回の登録制度見直しは、主に登録料金体系（水準）を実施



現在、各都道府県の中で法人化移行に対する合意形成はとれており、4月7日時点で16団体（既に取得していた12団体に加えて新たに4団体）が法人化を取得した確認がとれている。

またこの後、鳥取県、山梨県協会も法人化を取得すると聞いている。この流れで最終的には2027年度内（2028年度4月）には47都道府県がすべて法人化できるような形で進めていきたい。その中で課題として掲げているサポート体制を目指していく。最終的なJVAの財政的な支援は「法人格取得費補助金」「組織基盤強化補助金」2つの補助金を支給する。

今後、継続的に都道府県協会の自立した運営を行っていくために登録制度の見直しを行い、価格改定を行っていく。バレー界全体を通して、これまでの水準から引き上げる合意形成は取れているが、これから各団体が受けとる具体的な登録料の金額を提示し、改定を行っていく予定。

同時に登録者が使いやすいシステムの改修が必要であり、2025年度から1年かけて、システムの変更を進めていく。2026年度は新しいシステムでの登録運用を開始できるよう計画している。

#### ●年間会議スケジュールについて

2025年7月～2026年7月までの会議スケジュールについて確認がとられた。

#### ●シニア日本代表選手の決定および今後の活動スケジュールについて

女子代表先行して4月10日にプレスリリースを発出した。その後、男子代表については4月17日にプレスリリースを発出した。今回の選考に関して、女子代表はパリオリンピックで活躍した2名の大型選手の引退を受けて、ロサンゼルス五輪までは大型（身長180cm以上）のアウトサイドヒッターを育成するために若い選手を選出している点が代表チームの大きなポイントである。全体で34名選出。

男子代表はパリ五輪の主力選手を少し休息させる方針により中心選手はVNL千葉大会から招集することが決定している。全体で43名選出。

※5月9日に男女各1名の選手が追加登録されております。

#### ■VNL（日本ラウンド）

○7月9日～13日 女子大会 第3週 @千葉ポートアリーナ

○7月16日～20日 男子大会 第3週 @千葉ポートアリーナ

#### ■世界選手権

○8月22日～9月7日 女子大会 @タイ

○9月12日～28日 男子大会 @フィリピン

以上